育英西中学校高等学校

11月27日

2019年度 学校評価報告書(学校自己評価)

教　育　理　念	豊かな教養と純真な人間愛をもって。社会に貢献できる自立した女性を全教職員で育成する。
学校経営方針	1. 育英請願を柱とした人間教育 2. 自立性を育てる教育の教育開発と実践 3. 組織力を生かした学校運営と教育改善 4. 生徒の安全・安全の保証 5. 入試広報活動の強化

学校自己評価（4段階評価）　　A：達成度が高い　　B：概ね達成している　　C：課題を残している　　D：速やかな改善が必要である

学校経営計画				学校自己評価		
項　目		目　標	取り組み・実施計画	評価	評価の理由	課題及び改善
教育改善	教職員の研修の充実	魅力ある学校を目指して、教育内容の充実と教職員の資質向上をはかる。	今後の教育における課題についてプロジェクトチームを作り研究会を開催していきながら全体への研修を開く。			
教科指導	学習計画・学習内容	将来の社会で活躍する為に必要なスキルを身につけられる学習法を構築し実践する。また、これに必要な評価法を創り上げる。	中学校におけるバカロレアMYPの教授法、シナジータイム、高校におけるグローカル型に即したシナジータイムやSDの教育内容の検討、改善を進める。			
	学習内容の精選	教員用教務シラバスを使い、PDCAサイクルで学習内容の改善を行う。	シラバスに「身につけたい力」「到達度」「ふりかえり」「引継ぎ」の項目を追加し、PDCAサイクルの構築をする。			
	評価・指導方法の工夫・改善	各コースの目標に合わせ、生徒の意識を高める評価法をつくる。	国際バカロレアのMYPの評価法から生徒を伸ばす評価法を構築する。学期に1度の教科内研修を行い、教授法の研鑽を積む。			
	スキルの育成	社会で必要とされるスキルを身につけさせる。	◆「シラバス⇔授業⇔テスト⇔評価」の相互検証 ・ 新しいスタイルの授業で、何を身につけさせるか、どう評価するか。学力向上は維持で			
	教務全般	生徒・保護者・塾から信頼される学校を目指す。	◆ミスのない授業・考査・成績処理 ・ 個人の見直しとチームでのチェック ◆教員の時間・期限の厳守 ・ 授業前の生徒との関わり・観察につなげる ・ 仕事は相手がいることを忘れない ◆学習空間の整備 ・ クラス・授業のルール ・ 机間の確保 ・ 掲示物の整理（黒板には掲示物や連絡事項を書かない）			
生徒指導	組織的な生徒指導	年間計画に則して、生徒指導部員を中心に全教員で生徒指導を行う。	毎日の登校指導。学期ごとの服装・頭髪指導。 日々の身だしなみ指導と挨拶指導。			
	生徒会・各種委員会活動の活性化	中高の生徒会・各種委員会の交流を深め、組織の充実を図る。行事を通して、生徒の自主性や積極性を育む。	各種委員会。各行事で実行委員会を発足させ、主体的に行事運営をさせる。			
	クラブ活動活性化	クラブ加入率を上げて活性化を図る。	部活動紹介。クラブ体験会。 体育祭・文化祭で活動状況報告。			
	学級活動・学級経営	なかまづくりを進める。協働学習や学校行事などを通して、他者を思いやり尊重する心を育む。縦のつながりを育成する。	新入生対象オリエンテーション合宿。 中学生対象コミュニケーションワーク。 教科や行事でクラスの枠をこえた活動を実施。			
	教育相談・生徒理解及び指導	教員一人ひとりがカウンセラーであることを自覚し、実践する。学年主任を中心とした教育相談の体制づくり。	毎週水曜日にSC常駐。二者面談の実施。 精神科医による教育相談を年4回実施。 中学CWを実施。			
	問題行動に対する指導	問題事象を起こさせない事前の積極的な指導。学校全体で共通した方針で一貫した指導を行う。	生徒指導部を中心に情報共有。必要に応じて関係委員会など、学年・分掌をこえた体制で指導に臨む。			
	家庭との連携	家庭との協力体制を構築する。	三者面談での情報共有。 必要に応じて家庭訪問を実施。			
	関係諸機関との連携	関係諸機関との連絡を密に行う。	携帯教室の開催。 警察等の情報交換会に参加。			
人権教育	人権教育指導計画の立案	教職員がみずから人権についての認識を深め実践する。あらゆる差別の撤廃に取り組むことの出来る集団を育てる。	6年間の人権教育を視野に入れた年間の人権HR計画の立案、実施。			
	学習内容の精選	L.H.Rでの人権学習の計画指導を充実させ、教育活動を通しての人権教育を推進する。人権尊重の意識を育て、差別や不正義を許さない人格を育てる。	学年・学級での人権教育活動の充実。			
	指導方法の工夫改善	互いを支え合う学級集団作りを通して、生徒の生きる力を育む。	校内外の研究会での情報共有。			
特別支援	組織的な特別支援教育の体制作り	発達障害を含む障害のある生徒や、心因性疾患等により、日常の学習活動が困難な生徒の自立社会参加に向けた主体的な取り組みを行う。	SCによる職員研修会の実施。 特別支援委員会の開催。			
進路指導	組織的な進路指導	進路実績の向上を図る。自己の進路について主体的に考えられる生徒を育てる。	学年の進路指導部員が生徒の状況把握を行い、生徒の可能性を広げる指導を行う。大学入試を意識した補習の実施。基礎学力の			
	家庭との連携	保護者との連携を図り、生徒の進路目標の実現を図る。	保護者に進路状況等を定期的に報告。 生徒への適切な進路指導。			
	指導方法の工夫	研修会への積極的な参加	受験指導、進路指導、進路環境を学ぶ校外研修への参加。進路に関わる動向を教員間で共有する。教員対象の研修会の実施。			
	関係機関との連携	関係諸機関と連携を図り、進路保障の実現を図る。	高大連携事業の推進。高進協・ベネッセなどとの連携。			
生徒募集	受験生・入学生の確保	立命館コースはもちろん、特設コースの定員充足率100%を目指す。 それぞれのコースの特徴の明確化。	・塾、中学校を訪問し、最新の取組や実績を伝えるなど広報活動を行う。 ・内部生の数を考慮し、定員に沿った募集活動を行う。			
学校広報	効果的な広報活動	学校の認知度を高める。	・塾、中学校を訪問し、最新の取組や実績を伝えるなど広報活動を行う。 ・内部生の数を考慮し、定員に沿った募集活動を行う。			
家庭地域との連携	学校情報の発信	メディアやさまざまな媒体への積極的な情報発信。	学校新聞・HPなどにより、積極的に情報を発信していく。積極的な生徒の参画。			
	行事授業等の公開	学校行事や授業を保護者や場合によっては地域への公開を行う。	保護者や地域の人に可能な限り広報して本校を知ってもらう機会にする。			
	育西会との連携	保護者との連携を密にして学校への理解を深めてもらう。	役員会・委員会・保護者会を通じて、相互理解をはかり、日々の教育活動に生かす。			
組織運営	学校経営計画	年度当初に教育理念・学校経営方針について提示し、教職員相互に共通理解をはかる。	学園の経営状況を把握し、課題解決に向けて一丸となって取り組み、教育活動に効果的に生かす。若手とベテラン教員の連携を深め			
	分掌間の連携	分掌間の横の繋がりを強化する。	運営委員会の充実と、部長会により分掌長同士の連携を密に行う。			
	教職員間の連携強化	教職員の連携を強化。	教科・分掌を通じて教職員間の連携を深める。			
	教職員研修会の実施	教員一人ひとりの資質向上をはかる。	教職員が校内校外への研修会に積極的に参加する。教科内での研修テーマを学校全体のテーマとして取り組む。（研究授業）			
	新たな教育システムの定着	国際バカロレアの認定	2020年3月の認定を目指す。			
		グローカル型教育開発	今年度より3年間で、グローカル型教育開発を実施する。			
保健管理	心のケアや健康相談体制の整備	本校独自の健康相談体制の確立を図る。生徒一人ひとりの心の問題を把握し、配慮が必要な生徒に対応する。	毎週水曜日にSC常駐。 二者面談の実施。 精神科医による教育相談を年4回実施。			
	健康観察・健康管理能力の育成	健康診断・体力測定を実施し、生徒の自己の状態を把握させ、活用させる。	健康診断・体力測定の実施。 文化祭での献血協力。			
	関係機関との連携	保健に関わる関係機関との連携を図る。	学校医との連絡体制の構築。			
安全管理	学校安全・防災計画の立案	危機管理マニュアルの共通理解。	学期ごとの安全点検。 年2回の防災訓練。			
	危機管理体制の整備	危機管理マニュアルの共通理解。	学校安全計画の作成。			
施設設備管理	施設の管理	教室等の施錠、火元確認、整理整頓、備品管理、美化に努める。	各室の管理責任者との確認と、生徒への指導を促す。教職員・生徒の省エネに対する意識を高める。			
	学校に関する情報提供	学校評価（学校自己評価・学校関係者評価等）の結果を公表する。	学校評価に関して、保護者には文章とHPにて公表する。			
	文書管理徹底	学校関係書類の情報開示にむけて、文書管理を徹底する。	管理の徹底。1年に一度の点検の実施。			